



No.145

発行日：2025年8月15日

神奈川ネット 市政報告



市議 布瀬めぐみ



市議 吉田なな

ベンチがつなぐ 「まち」と「ひと」

6月の一般質問より

高齢者の健康を維持していくために、歩くことが重要です。安心して外出するにはベンチを増やすなど、道で休むことができる環境を整えることが必要です。

大和市議 吉田なな

歩くことの重要性

歩くことは生活習慣病の予防や骨を強くする効果、便秘解消などが期待できます。また全身の血行が良くなり脳の血液循環が促されることで、思考力や記憶力、学習能力が高まることも分かっています。さらに、気分を落ち着かせ、集中力を高め、不安を解消し、ポジティブな気分をもたらす効果もあります。

安心して外出するには

海外の研究では、一定以上の歩行が認知症予防に効果的であることも示されており、歩くことは健康にとって重要です。

大和市の65歳以上の人口は、2015年の5万1,926人から2024年には5万8,495人と年々増加しており、今後も高齢化はさらに進むと予測されます。

国土交通省が発表している「高齢者の外出特性について」の中では、無理なく休まずに歩ける距離が100m未満の人は75歳以上では17%にもなりません。従って、歩くことに不安がある人が安心して外出するためには、休憩する場所が道のあちこちにあることが必要です。ベンチなどがあれば、少し腰掛けて休むことでまた歩くことができ、外出の幅が広がります。

大和市の現状

神奈川ネットの提案により2022年度に一人掛けのスツールベンチを12基、2023年度は二人掛け以上のベンチを10基、2024年度は4基の設置が実現し、

3年間で市が新たに設置したベンチは26基となりました。今回の一般質問で、市にベンチの設置の効果を聞いたところ、「設置した結果、子育て世代や高齢者の方など多くの方が利用している状況から、ベンチの必要性を改めて確認した」と答弁しました。ベンチの意義を認識しているにも関わらず、今年度は予算が削除され、設置の予定はありません。



市民によって設置されたベンチ

市の財政が厳しい中、身近に休憩する場所を増やしていくには、市民の協力が必要ではないでしょうか。

例えば南林間駅から100メートルくらいの距離の家の玄関先にベンチ★が置かれています。子どもたちが散歩中に座って、挨拶や声かけが生まれているそうです。また大和駅近くの新橋通りに

は、商店街にベンチを置いているお店があります。高齢者がまちを歩く時の休憩するポイントになっていて、お店の前でしばらく休んでいく人たちの会話が弾んでいるそうです。

市民が主体のまちづくり

まちづくりの課題には市民が地域と一緒に主体となって考えていくことが大切です。「地域のどこにベンチが必要か」「どうしたらたくさんの方の休憩する場所を増やすことができるのか」考えていく市民を増やし、市民と地域と行政と一緒にまちづくりができるように、人にやさしいまちができるはず。

神奈川ネットは、市民や自治会、商店街と連携しながら、ベンチの設置を増やしていけるよう活動していきます。



★南林間の手作りベンチ

*6月議会では、他に「安心して保育できる環境」について質問しました。

吉田ななの一般質問はホームページでもご覧いただけます。こちらのQRコードからお入りください。



日米地位協定の改定を求める請願書が採択

大和市議 布瀬めぐみ

6月議会に「日米地位協定の改定を求める意見書を国に提出すること」を求める請願書が提出され、賛成多数で採択されました。

(反対は1人)

「ある日、住宅密集地の上を、耳をつんぎくような轟音と共に自分に向かってくるかのような低空飛行の飛行機に思わずしゃがみ込んでしまった。怖かった。」と請願者は意見陳述の場で語りました。市民が恐怖を抱きながら生活をしている悲痛な声です。

昨年8月に海老名市、10月には茅ヶ崎市に米軍ヘリが臨時着陸した際も日米地位協定により県警の現場検証ができず、その原因を究明することとはできませんでした。この背景には、米軍用機の低空飛行を認める航空特別法や事件の際に日本側に立ち入る権利がないこと、刑事裁判権における米軍の特権などを定めた「日米地位協定」があるからです。

県内の横須賀市や逗子市で発生した米軍米兵による事件事故の問題も日米地位協定の改定なしには、日本の法律で裁くことができません。

繰り返される事件事故は大和市でも起きており、今日明日にもまた起きるかもしれません。

今回、厚木基地を抱える大和市でこの請願書が採択され、大和市議会から意見書を国に提出することができた意義は大きいのです。

市民生活と市民の人権を守り、安心して生活を取り戻すために、今後声を上げていきます。